

第2章 第2次計画期間における成果と課題

1 第2次計画期間における取り組み・成果

第2次計画期間における主な取り組みとその成果を以下に示します。

なお、計画の体系に沿った全ての取り組み・成果・課題の一覧につきましては、別途、資料編（P.42～69）に掲載しています。

I 子どもの読書環境の整備・充実

- ▶ 図書館では、年齢に応じたおはなし会やかがくあそび、工作教室を実施しました。このほか、季節にあわせた特別行事を実施しました。（所沢図書館）
- ▶ 各保育園・幼稚園では、親子で楽しんでもらえるように、絵本の貸出や園だよりによる啓発、園での絵本の読み聞かせ等を実施しました。また、子どもが手に取りやすいよう、絵本の配置に工夫するなどしました。（保育園・幼稚園）
- ▶ 各小中学校では、朝読書^{※3}やボランティアの協力による読み聞かせ等を実施したほか、環境整備ボランティアの協力により学校図書館や学級文庫の充実を図りました。（小学校・中学校）
- ▶ 各小中学校の学校図書館では、夏季休業中の貸出冊数を通常より増やす、夏季休業中の図書館開館を実施する等、各校の状況に応じて長期休暇期間中の読書活動推進に努めました。（小学校・中学校）
- ▶ 全中学校に加え、平成23年度より順次、市内小学校に学校司書^{※4}を配置しました。平成30年度現在では、中学校全15校、小学校23校（全32校中）に配置されています。（教育総務課・学校教育課）
- ▶ 各児童館では、本の貸出やおすすめ本の紹介、おはなし会等を実施しました。（児童館）
- ▶ 各公民館が実施する子育てサロン・子育て講座等の際に、絵本の紹介や読み聞かせを実施しました。（公民館）
- ▶ 平成27年度から、防衛医科大学学校病院内学級「ひまわり」（並木小学校・中央中学校分教場）への図書館司書^{※5}による出張おはなし会を開始しました。（所沢図書館）

- ▶ 平成28・30年度に、所沢第二幼稚園の保護者向け読み聞かせ講習会を行い、図書館司書を講師として派遣しました。(所沢図書館)
- ▶ 平成29年度から、北小学校ほうかごところ^{※6}への図書館司書による出張おはなし会を開始しました。(所沢図書館)
- ▶ 平成29年1月に新設されたこどもと福祉の未来館2階のこども支援センターが実施する子育て支援事業と連携し、平成29年度から図書館司書による出張おはなし会を開始しました。(所沢図書館)



▲こども支援センター子育て支援事業での出張おはなし会

-
- ※³ 朝読書：小中学校において、時間を決めて一斉に読書をする活動のこと。
 - ※⁴ 学校司書：学校図書館担当教諭のもと、学校図書館の日常業務の実務にあたる職員。
 - ※⁵ 司書：図書館に置かれる専門的職員。図書館の管理・運営、資料の収集・整理・保管、閲覧・貸出・レファレンスサービス（利用者の調べもののお手伝い）等の、図書館に固有の専門的業務に従事する。
 - ※⁶ ほうかごところ：放課後の児童の安全・安心な居場所づくりの取り組みとして、小学校施設を利用して開設。平成30年度現在10校で実施。

II 学校・地域等の連携による推進体制の整備

- ▶ 市内小学校3学年全学級および希望する他学年の学級に対し、図書館司書による学級訪問（ブックトーク^{*7}）を実施したほか、図書館見学・中学生職場体験活動の受け入れを実施しました。（所沢図書館）
- ▶ 小中学校・図書館間に連絡業務便を運行し、調べ学習・総合的な学習の支援や、学級文庫の充実のため、図書館による学校団体貸出^{*8}を実施しました。また、学校業務連絡便の運行については、平成26年度より市内県立高等学校（3校）にも拡大しました。（所沢図書館・小中学校・高等学校）
- ▶ 平成26年度より、家庭教育学級^{*9}への図書館職員を派遣するサービスのPRのため、家庭教育学級代表者会議へ、職員を派遣しました。（所沢図書館・社会教育課）
- ▶ 平成28年度より、市内医療機関（小児科・産婦人科）へ、図書館発行の「乳幼児の保護者向け図書館利用案内」と、リーフレット「赤ちゃんにえほんを」の配置を開始しました。また、平成29年度より、こども支援センター子育て支援事業と連携し、同利用案内およびリーフレットの配置を開始、また、保健センターでは、乳児家庭全戸訪問の際に、同利用案内の配布を開始しました。（所沢図書館・保健センター・こども支援課）
- ▶ 平成26年度より、保健センターにおけるBCG接種会場にて実施する「はじめてのおもちゃ・絵本コーナー」へ、図書館から、読み聞かせボランティアとして協力を開始しました。（保健センター・所沢図書館・児童館）
- ▶ 所沢第二幼稚園では、平成28年度より近隣施設との協力による「森の図書館」を開始しました。（幼稚園・所沢図書館）
- ▶ 図書館と高等学校図書館との情報交換会を年1回実施しました。（所沢図書館・高等学校）
- ▶ 学校図書主任・学校図書館司書補助員研修会（平成27年度より学校司書研修会）を実施しました。図書館からは講師として職員を派遣しました。（学校教育課・所沢図書館）

- ▶ 図書館では、読み聞かせボランティア向けの手引きを作成・配布したほか、読み聞かせボランティア講座（平成26・28年度）、ストーリーテリング^{※10}入門講座（平成27・29年度）等を実施し、ボランティアに対する支援を行いました。（所沢図書館）
- ▶ 関係機関との情報交換・連絡調整のため、「所沢市子どもの読書活動推進連絡会」を設置し、毎年定期的を開催しました。
（所沢図書館・学校教育課・経営企画課・財政課・公民館〔まちづくりセンター〕・こども支援課・児童館〔青少年課〕・幼稚園・保育園〔保育幼稚園課〕・保健センター〔健康づくり支援課〕・教育総務課・社会教育課・生涯学習推進センター・高等学校・特別支援学校^{※11}・中学校・小学校）



▲小学校での図書館職員によるブックトーク

-
- ※⁷ **ブックトーク**：本に対する興味と関心を呼び起こすため、テーマを決めて、読み聞かせ等を交えながら数冊の本を紹介すること。
 - ※⁸ **学校団体貸出**：学級文庫や総合学習等に利用するため、1学級につき40冊まで本を借りることができるサービス（貸出期間：1か月）。
 - ※⁹ **家庭教育学級**：「豊かな心、自ら学ぶ意欲、個性、基本的な生活習慣」を培う家庭教育について学ぶ、保護者や地域の方の学習の場。家庭や地域の教育力の向上を支援するため、市内全小中学校区に開設されている。
 - ※¹⁰ **ストーリーテリング**：物語（お話）を覚えて語ること。
 - ※¹¹ **特別支援学校**：障害のある子どもに対し、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする学校。市内には県立所沢特別支援学校、県立所沢おおぞら特別支援学校の2校がある。

Ⅲ 子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発

- ▶ 「子ども読書の日^{※12}」の普及のため、図書館においてボランティアの協力によるおはなし会等の行事を実施しました。（所沢図書館）
- ▶ 公民館では、子育て講座・講演会を毎年実施し、保護者や地域の大人に対しての啓発を行いました。また、図書館では、毎年児童文学講演会を実施しました。（公民館・所沢図書館）
- ▶ 図書館では、年齢に応じたブックリスト^{※13}を毎年作成・配布し、紹介した本の展示を行いました。（所沢図書館）



▲子ども読書の日おはなし会

※¹² 子ども読書の日：子どもの読書活動の推進に関する法律により、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めることを目的とする。ユネスコが「世界本の日」としている4月23日を、“子ども読書の日”と定めた。

※¹³ ブックリスト：読書を薦めたり本を紹介したりするために、図書館等で年代別・項目別等に分けて作成する、本のリスト。

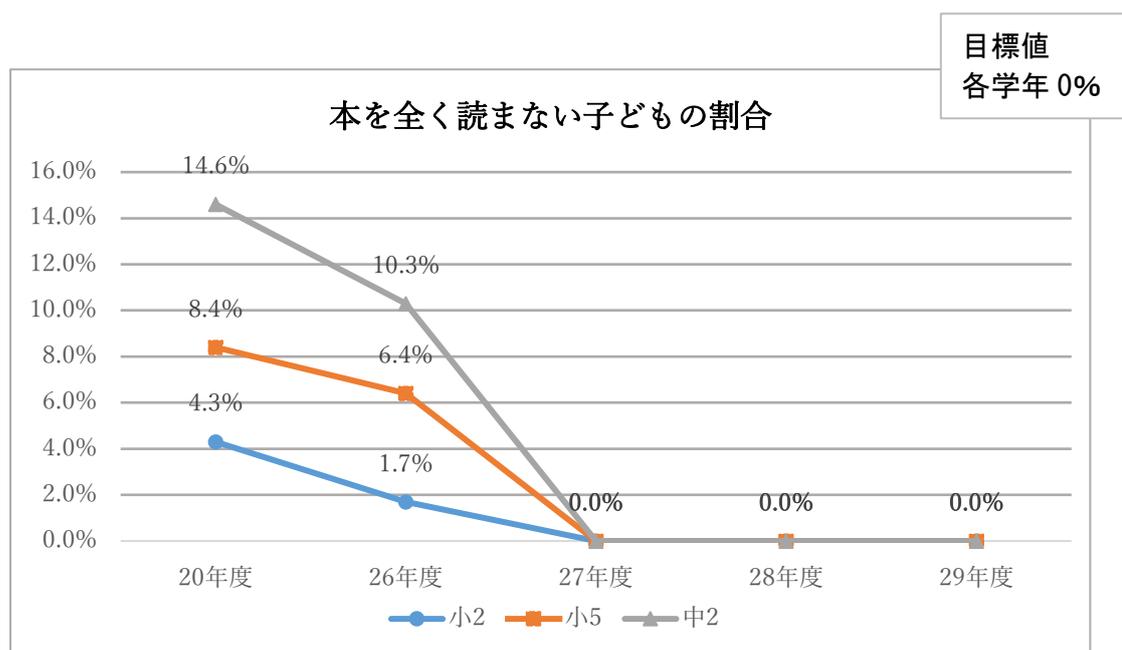
2 第2次計画成果目標達成状況

〇本を全く読まない子どもの割合

市内全校による朝読書の取り組みにより、平成27年度より各学年0%を達成しました。

但し、平成29年度における1か月に1冊しか読まない児童生徒の割合は、小学校2年生で9.1%、小学校5年生で15.5%、中学校2年生で31.6%となっています。

家庭や学校を中心に、さらに読書冊数を増やしていく取り組みを行う必要があります。



(所沢市子どもの読書アンケート調査※¹⁴より)

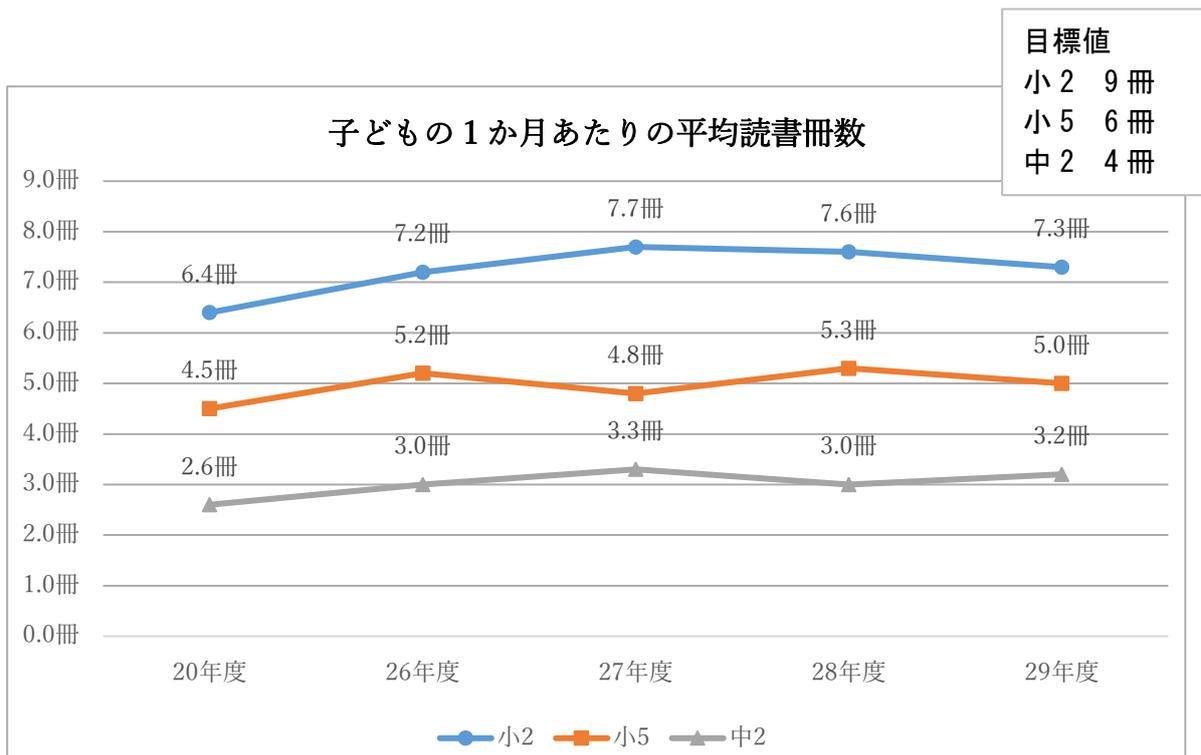
※¹⁴ 所沢市子どもの読書アンケート調査：子どもの読書活動推進計画において、現状を把握することなどを目的として行うアンケート。対象は小学校2・5年生とその保護者および中学校2年生とし、毎年ランダムに抽出したクラスに行っている。結果の詳細は、資料編（P.70～83）を参照。

○子どもの1か月あたりの平均読書冊数

小学校2年生で7.2冊から7.3冊（目標達成率81%）、小学校5年生で5.2冊から5冊（同83%）、中学校2年生で3冊から3.2冊（同80%）と、小学校2年生と中学校2年生で数値が改善されましたが、小学校5年生は、数値が下がりました。

月に10冊以上読む子が小学校2年生で43.6%、小学校5年生で18.0%、中学校2年生で7.8%と、本をたくさん読む子がいる一方、ほとんど読まない子もいることが、目標達成できなかった要因になっていると考えられます。

これは、第2次計画においても指摘されていることであり、さらなる読書の楽しさやすばらしさを体験できる具体的な取り組みが必要です。



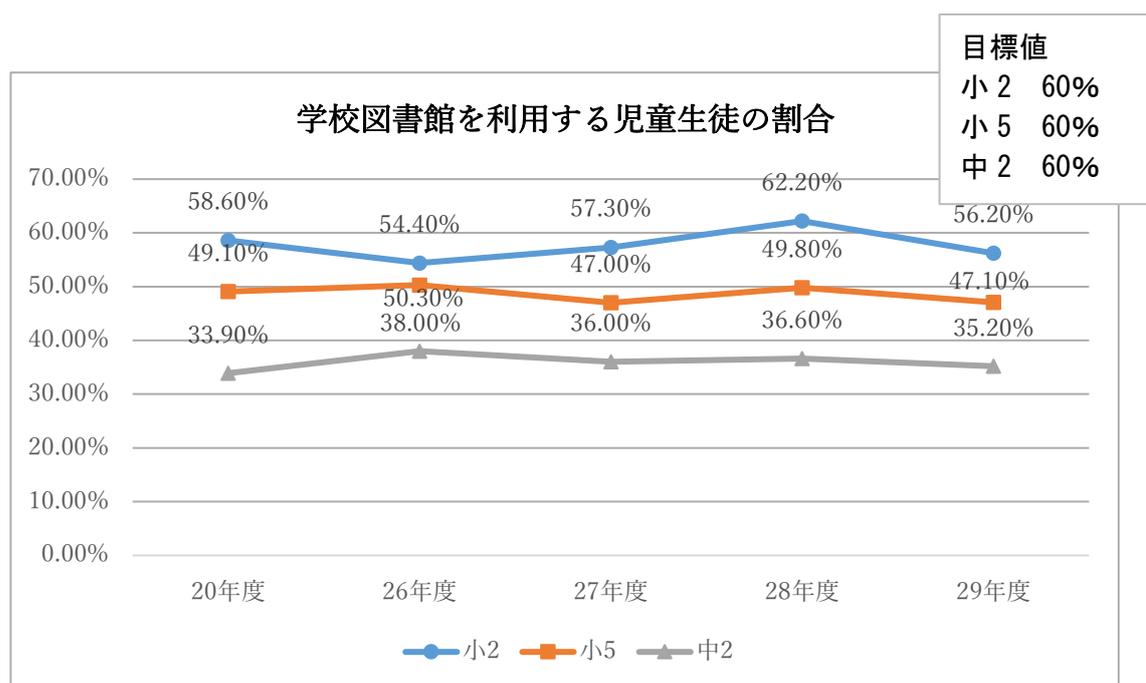
（所沢市子どもの読書アンケート調査より）

○学校図書館を利用する児童生徒の割合

小学校2年生は、54.4%から56.2%と数値が改善しましたが、小学校5年生では、50.3%から47.1%、中学校2年生では、38%から35.2%と数値が下がりました。

また、小学校2年生、小学校5年生、中学校2年生ともに目標値を達成することができませんでした。これは、児童の安全確保のため、放課後は速やかに下校させていることや、体力向上のため、休み時間は外遊びをするよう指導していることなどが影響していると考えられます。

各学校は、学校図書館利用向上のため、学校図書館の活用の推進と機能向上を進める必要があります。



(所沢市子どもの読書アンケート調査より)

○学校図書館図書標準^{※15}の達成率

学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、文部科学省が定める基準に対する達成率です。

小学校では100%を超えていますが、これは新規購入が進んでいる反面、古い図書の除籍が進んでいないことが要因として考えられます。

引き続き、図書の新規購入や除籍などの適切な蔵書管理が必要です。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
小学校	102.7%	103.4%	104.7%	100.6%
中学校	94.0%	94.2%	93.8%	95.2%

(学校図書蔵書数一覧(教育総務課調査)より)



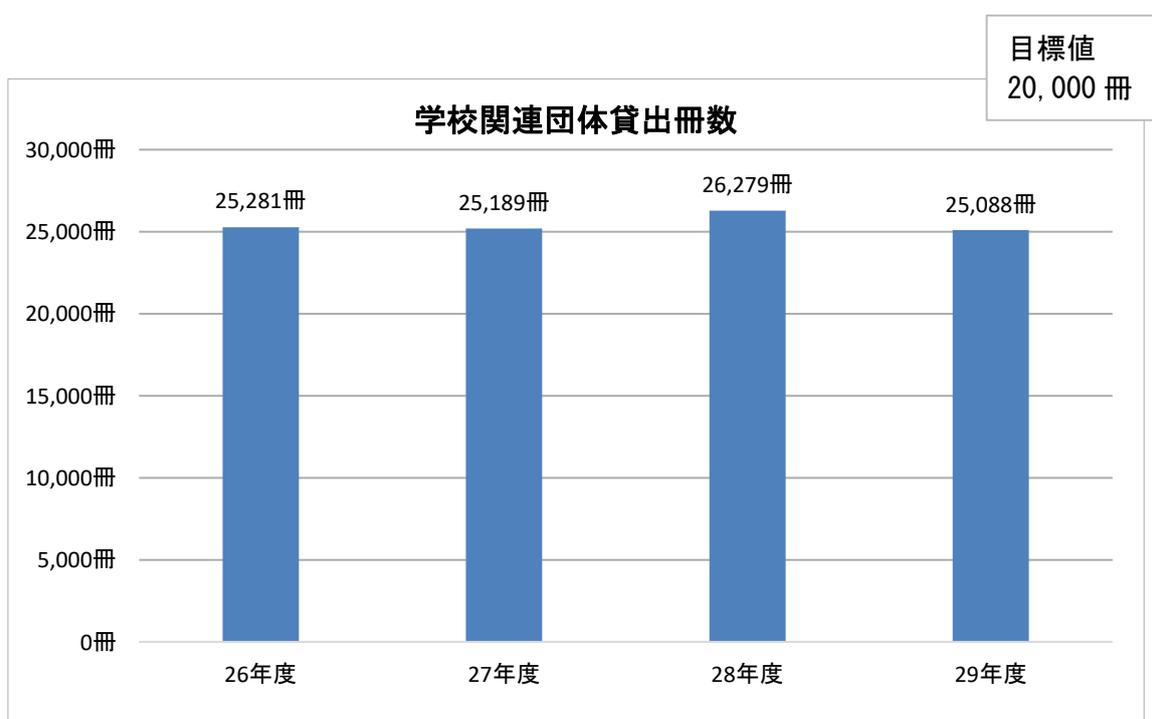
所沢市マスコットキャラクター
トコロん

※¹⁵ 学校図書館図書標準:文部科学省が定めた、小中学校の学校図書館の蔵書についての、学校規模(学級数)に応じた整備目標。

○学校関連の団体貸出冊数

市立図書館から学校関連団体（小中学校・幼稚園・保育園・高等学校・特別支援学校・児童館・児童クラブ^{※16}・所沢児童相談所等）に貸出した図書等の数です。

貸出冊数はおおむね横ばいで、各年度で目標値も達成できています。引き続き、各施設等での読書活動が活発になるよう事業を進める必要があります。



(所沢図書館統計より)

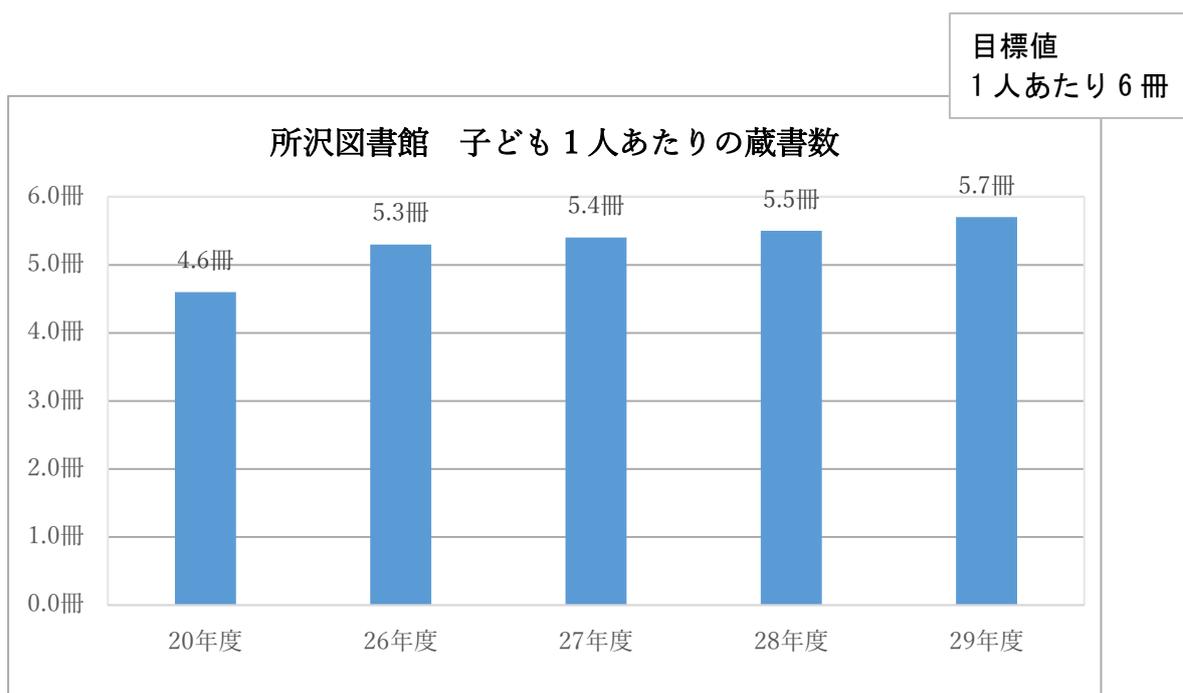
※¹⁶ 児童クラブ：放課後の留守家庭児童の安心・安全な居場所として実施している事業。
平成30年度現在36ヶ所設置。

○子ども1人あたりの児童書数

計画的な購入により、所沢図書館蔵書の子ども1人あたりの児童書数は、5.3冊から5.7冊に増えました。

児童書の総蔵書数で見ても、290,163冊から309,808冊に増えています。

しかしながら、第2次計画においては目標達成に至らなかったため、第3次計画期間中の達成に向け、さらなる充実に努める必要があります。



(所沢図書館統計より)

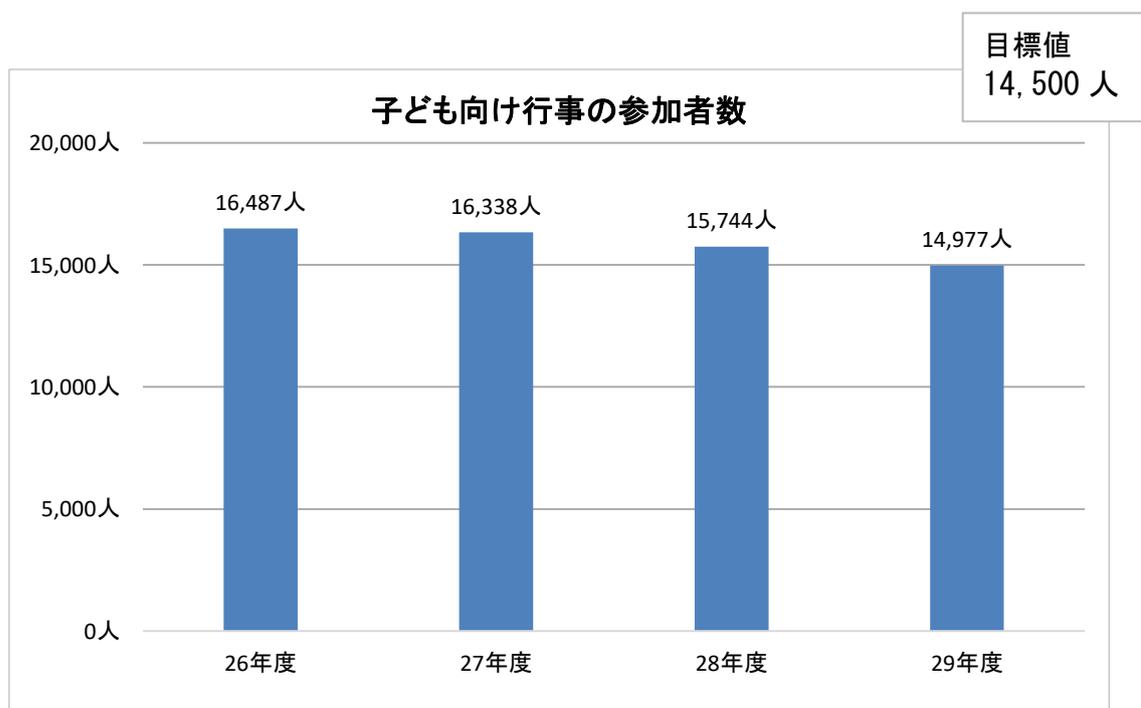
○子ども向け行事の参加者数

所沢図書館が実施する子ども向け行事の参加者数です。

子ども向け行事の回数は例年通りですが、参加人数は減少傾向にあります。

目標値の14,500人は各年度で達成していますが、このまま減少すると目標値の達成が難しくなる可能性があります。

全体的な少子化の影響も考えられますが、減少傾向に歯止めをかけるための対応の検討が必要です。



(所沢図書館統計より)

3 第2次計画期間における課題

I 子どもの読書環境の整備・充実

- ▶ 各小中学校の学校図書館や学級文庫の蔵書数がまだ十分ではありません。学校図書館の利用促進に向け、除籍・購入等の適切な蔵書管理による整備を進め、魅力ある蔵書をさらに豊富に揃えていくことが重要です。
- ▶ 子どもの本のコーナーを設けている施設のうち、スペース等の問題により、読書環境を安定して作れていない施設があります。また、限られた予算内で、新刊図書を十分に購入することが困難なため、各施設の子どもの本のコーナーの図書は古くなったものが多く、子どもたちが読みたいと思う本に出会いにくい状況です。
- ▶ 学校により、学校図書館の蔵書管理体制に差がある状況です。学校司書を市内小学校の全校に配置し、蔵書管理体制に加え、学校図書館の利用促進などの活動につながるよう努めることが重要です。
- ▶ 学校ごとに作成している、図書館を活用するための計画に基づいて、学校図書館を活用した取り組みをさらに充実させていく必要があります。

II 学校・地域等の連携による推進体制の整備

- ▶ 子どもの読書活動に関する地域団体・ボランティアのネットワーク構築に関して、情報提供の状況など現状が把握できていない部分があります。関係機関が協力し、さらにネットワーク体制を充実していく必要があります。
- ▶ 所沢市子どもの読書アンケート調査によると、年齢が上がるにつれて、本を読む冊数や、図書館を利用する頻度が減少する傾向にあり、特に、興味や関心が広がる中学生・高校生世代（ティーンズ^{※17}世代）において「読書離れ」が顕著になっています。しかし、心身の成長が著しいこの世代は、読書に対する興味を持つことができれば、自発的に豊かな読書体験を積むことができる年代でもあります。中学校・高等学校等との連携を密にしながら、どのように中学生・高校生世代（ティーンズ世代）の読書活動を支援していくかが課題となっています。

※¹⁷ ティーンズ：主に13歳から19歳を示す英語。日本ではおおむね中学生・高校生が含まれるが、高校生より上の年齢も対象となる。

Ⅲ 子どもの読書活動への理解や関心の普及・啓発

- ▶ 乳幼児健康診査・母親学級等、さまざまな機会を利用して保護者への啓発に努めていますが、価値観が多様化する現代社会においては、読書習慣が身につけている子とそうでない子の差が大きくなっています。いかににより多くの保護者に、子どもの読書活動の重要性を理解してもらうかが課題となっています。
- ▶ 子どもたちの成長には、幼稚園・保育園、学校、家庭以外にも、公民館、児童館、図書館など、さまざまな機関が関わっています。これら子どもに関わる各機関や関係者に対し、子どもの読書活動についての理解や関心をさらに普及・啓発していくことが必要です。



▲森の図書館



▲カンガルータイム（保護者による読み聞かせ）